

運 航 基 準

(一般旅客定期航路事業)

(旅客不定期航路事業)

(人の運送をする内航不定期航路事業)

目 次

第1章	目 的
第2章	運航の可否判断
第3章	船舶の航行

第1章 目的

(目的)

第1条 この基準は、安全管理規程に基づき、佐井～仏ヶ浦航路、佐井～牛滝航路、佐井～脇野沢航路及び青森港～仏ヶ浦港航路の船舶の運航に関する基準を明確にし、もって航海の安全を確保することを目的とする。

第2章 運航の可否判断

(発航の可否判断)

第2条 船長は、発航前に運航の可否判断を行い、発航地港内の気象・海象が次に掲げる条件の一に達していると認めるときは、発航を中止しなければならない。

航路名	気象・海象	風速	波高	視程
	港名			
佐井～仏ヶ浦航路	佐井港	東寄りの風向の場合16m/s以上 その他の風向の場合11m/s以上	1.0m以上	500m以下
	仏ヶ浦港	東寄りの風向の場合16m/s以上 その他の風向の場合11m/s以上	1.0m以上	500m以下
佐井～牛滝航路	佐井港	東寄りの風向の場合16m/s以上 その他の風向の場合11m/s以上	1.0m以上	500m以下
	福浦港	東寄りの風向の場合16m/s以上 その他の風向の場合11m/s以上	1.0m以上	500m以下
	仏ヶ浦港	東寄りの風向の場合16m/s以上 その他の風向の場合11m/s以上	1.0m以上	500m以下
	牛滝港	東寄りの風向の場合16m/s以上 その他の風向の場合11m/s以上	1.0m以上	500m以下
佐井～脇野沢航路	佐井港	東寄りの風向の場合16m/s以上 その他の風向の場合11m/s以上	1.0m以上	500m以下
	仏ヶ浦港	東寄りの風向の場合16m/s以上 その他の風向の場合11m/s以上	1.0m以上	500m以下
	脇野沢港	東寄りの風向の場合16m/s以上 その他の風向の場合11m/s以上	1.0m以上	500m以下
青森港～仏ヶ浦港航路	青森港	東寄りの風向の場合16m/s以上 その他の風向の場合11m/s以上	1.0m以上	500m以下
	仏ヶ浦港	東寄りの風向の場合16m/s以上 その他の風向の場合11m/s以上	1.0m以上	500m以下

2 船長は、発航前において、航行中に遭遇する気象・海象（視程を除く。）に関する情報を確認し、次に掲げる条件の一に達するおそれがあると認めるときは、発航を中止しなければならない。

航路名	港名	風速	波高
佐井～仏ヶ浦航路	佐井港	東寄りの風向の場合16m/s以上 その他の風向の場合11m/s以上	2.0m以上
	仏ヶ浦港	東寄りの風向の場合16m/s以上 その他の風向の場合11m/s以上	2.0m以上

佐井～牛滝航路	佐井港	東寄りの風向の場合16m/s以上 その他の風向の場合11m/s以上	2.0m以上
	福浦港	東寄りの風向の場合16m/s以上 その他の風向の場合11m/s以上	2.0m以上
	仏ヶ浦港	東寄りの風向の場合16m/s以上 その他の風向の場合11m/s以上	2.0m以上
	牛滝港	東寄りの風向の場合16m/s以上 その他の風向の場合11m/s以上	2.0m以上
佐井～脇野沢航路	佐井港	東寄りの風向の場合16m/s以上 その他の風向の場合11m/s以上	2.0m以上
	仏ヶ浦港	東寄りの風向の場合16m/s以上 その他の風向の場合11m/s以上	2.0m以上
	脇野沢港	東寄りの風向の場合16m/s以上 その他の風向の場合11m/s以上	2.0m以上
青森港～仏ヶ浦港路	青森港	東寄りの風向の場合16m/s以上 その他の風向の場合11m/s以上	2.0m以上
	仏ヶ浦港	東寄りの風向の場合16m/s以上 その他の風向の場合11m/s以上	2.0m以上

3 船長は、前2項の規定に基づき発航の中止を決定したときは、旅客の下船、保船措置その他の適切な措置をとらなければならない。

(基準航行の可否判断等)

第3条 船長は、基準航行を継続した場合、船体の動揺等により安全な運航が困難となるおそれがあると認めるときは、基準航行を中止し、減速、適宜の変針、基準経路の変更等の適切な措置をとらなければならない。

2 前項に掲げる事態が発生するおそれのあるおおよその海上模様及び船体動揺は、次に掲げるとおりである。

航路名	風速	波高	動揺
佐井～仏ヶ浦航路	東寄りの風向の場合16m/s以上 その他の風向の場合11m/s以上	波高2.0m以上 うねり階級4以上	横揺れ 15度以上
佐井～牛滝航路	東寄りの風向の場合16m/s以上 その他の風向の場合11m/s以上	波高2.0m以上 うねり階級4以上	横揺れ 15度以上
佐井～脇野沢航路	東寄りの風向の場合16m/s以上 その他の風向の場合11m/s以上	波高2.0m以上 うねり階級4以上	横揺れ 15度以上
青森港～仏ヶ浦港路	東寄りの風向の場合16m/s以上 その他の風向の場合11m/s以上	波高2.0m以上 うねり階級4以上	横揺れ 15度以上

3 船長は、航行中、周囲の気象・海象（視程を除く。）に関する情報を確認し、次に掲げる条件の一に達するおそれがあると認めるときは、目的港への航行の継続を中止し、反転、避泊又は臨時寄港の措置をとらなければならない。ただし、基準経路の変更により目的港への安全な航行の継続が可能と判断されるときは、この限りでない。

航路名	風速	波高
佐井～仏ヶ浦航路	東寄りの風向の場合16m/s以上 その他の風向の場合11m/s以上	2.0m以上

佐井～牛滝航路	東寄りの風向の場合16m/s以上 その他の風向の場合11m/s以上	2.0m以上
佐井～脇野沢航路	東寄りの風向の場合16m/s以上 その他の風向の場合11m/s以上	2.0m以上
青森港～仏ヶ浦港路	東寄りの風向の場合16m/s以上 その他の風向の場合11m/s以上	2.0m以上

- 4 船長は、航行中、周囲の視程に関する情報を確認し、次に掲げる条件に達したと認めるときは、基準航行を中止し、当直体制の強化及びレーダの有効利用を図るとともにその時の状況に適した安全な速力とし、状況に応じて停止、航路外錨泊又は基準経路変更の措置をとらなければならない。

視程	500 m以下
----	---------

(入港の可否判断)

- 第4条 船長は、入港予定港内の気象・海象に関する情報を確認し、次に掲げる条件の一に達していると認めるときは、入港を中止し、適宜の海域での錨泊、抜港、臨時寄港その他の適切な措置をとらなければならない。

気象・海象 港名	風速	波高	視程
佐井港	東寄りの風向の場合16m/s以上 その他の風向の場合11m/s以上	1.0m以上	500m以下
福浦港	東寄りの風向の場合16m/s以上 その他の風向の場合11m/s以上	1.0m以上	500m以下
仏ヶ浦港	東寄りの風向の場合16m/s以上 その他の風向の場合11m/s以上	1.0m以上	500m以下
牛滝港	東寄りの風向の場合16m/s以上 その他の風向の場合11m/s以上	1.0m以上	500m以下
脇野沢港	東寄りの風向の場合16m/s以上 その他の風向の場合11m/s以上	1.0m以上	500m以下
青森港	東寄りの風向の場合16m/s以上 その他の風向の場合11m/s以上	1.0m以上	500m以下

(運航の可否判断等の記録)

- 第4条の2 運航管理者及び船長は、運航の可否判断、運航中止の措置及び協議の内容を運航管理日誌及び航海日誌等に記録するものとする。運航中止基準に達した又は達するおそれがあった場合における運航継続の措置については、判断理由を記載すること。記録は適時まとめて記載してもよい。

第3章 船舶の航行

(航海当直配置等)

- 第5条 船長は、運航管理者と協議して次の配置を定めておくものとする。変更する場合も同様である。

- (1) 出入港配置
- (2) 通常航海当直配置

(3) 狭視界航海当直配置

(4) 荒天航海当直配置

(運航基準図等)

第6条 運航基準図に記載すべき事項は次のとおりとする。

なお、運航管理者は、当該事項のうち必要と認める事項について運航基準図の分図、別表等を作成して運航の参考に資するものとする。

(1) 起点、終点及び寄港地の位置並びにこれら相互間の距離

(2) 航行経路（針路、変針点、基準経路の名称等）

(3) 標準運航時刻（起点、終点及び寄港地の発着時刻並びに主要地点通過時刻）

(4) 船長が運航管理者と連絡をとるべき地点

(5) 航行経路付近に存在する浅瀬、岩礁等航行の障害となるものの位置

(6) その他航行の安全を確保するために必要な事項

2 船長は、基準経路、避険線その他必要と認める事項を常用海図に記入して航海の参考に資するものとする。

(基準経路)

第7条 基準経路は、運航基準図に記載のとおりとする。

(速力基準等)

第8条 速力基準は、次表のとおりとする。

船名	速力区分		速力	毎分機関回転数
ニューしもきた	港内	最微速	1.5 ノット	600 rpm
		微速	4 ノット	800 rpm
		半速	10 ノット	1,200 rpm
	航海速力		20 ノット	2,300 rpm
ニューしもきたⅡ	港内	最微速	1.5 ノット	600 rpm
		微速	4 ノット	800 rpm
		半速	10 ノット	1,200 rpm
	航海速力		20 ノット	2,300 rpm
ニューしもきた5	港内	最微速	1.5 ノット	600 rpm
		微速	4 ノット	800 rpm
		半速	10 ノット	1,000 rpm
	航海速力		20 ノット	1,700 rpm
ニューしもきた3	港内	最微速	1.5 ノット	600 rpm
		微速	4 ノット	800 rpm
		半速	10 ノット	1,000 rpm
	航海速力		20 ノット	2,000 rpm

2 船長は、速力基準表を船橋内に掲示しなければならない。

3 船長は、旋回性能、惰力等を記載した操縦性能表を船橋に備付けておかなければならない。
(通常連絡等)

第9条 船長は、基準経路上の次の(1)の地点を通過したときは、運航管理者あて次の(2)の事項を連絡しなければならない。

(1) 通常連絡地点

航 路 名	地 点 名
佐井～仏ヶ浦航路	大漁島付近地点
佐井～牛滝航路	大漁島付近地点
佐井～脇野沢航路	大漁島付近地点及び焼山崎・貝崎沖合い地点
青森港～仏ヶ浦港航路	大漁島付近地点

(2) 連絡事項

- ① 通過地点名
- ② 通過時刻
- ③ 天候、風向、風速、波浪、視程の状況
- ④ その他入港予定時刻等運航管理上必要と認める事項

2 運航管理者は、航行に関する安全情報等船長に連絡すべき事項が生じた場合は、その都度速やかに連絡するものとする。

(入港連絡等)

第10条 船長は、入港10分前となったときは、運航管理者又は運航管理補助者に次の事項を連絡しなければならない。

- (1) 入港予定時刻
- (2) 運航管理者又は運航管理補助者の援助を必要とする事項

2 前項の連絡を受けた運航管理者又は運航管理補助者は、船長に次の事項を連絡するものとする。

- (1) 着岸岸壁の使用船舶の有無
- (2) 着岸岸壁付近の停泊船舶の状況
- (3) 岸壁付近の風向、風速、視程、波浪（風浪、うねりの方向、波高）及び潮流（流向、流速）
- (4) その他操船上の参考となる事項

(連絡方法)

第11条 船長と運航管理者又は運航管理補助者との連絡は、次の方法による。

	区 分	連 絡 先	連 絡 方 法
(1)	通常の場合	本 社	イリジウム衛星携帯電話 携帯電話（ドコモ）
(2)	緊急の場合	本 社	

(機器点検)

第12条 船長は、入港着岸前、防波堤手前150m等入港地の状況に応じ安全な海域において、機関の後進、舵等の点検を実施する。一日に何度も入出港を繰り返す場合も同様である。

(記録)

第 13 条 船長及び運航管理者は、基準航路の変更に関して協議を行った場合は、その内容を航海日誌等に記録するものとする。